

県立高校再編整備候補案について

【第3通学区】

通学区全体	<ul style="list-style-type: none"> ・第3通学区の中学校卒業生数は、平成2年の9,362人のピークに比べ、平成31年には5,258人（平成2年比56.2%）に減少することが見込まれる。 ・総数決定基準に基づき、25校から22校に再編整備することが必要となる。 ・第7区での募集学級数は、平成17年の46学級に対し、平成31年には、43学級程度となることが推定されるが、平成30年までは減少しないことから、現在の学校数を維持することが適切である。
-------	--

箕輪工業高校の多部制・単位制高校への転換

<div>箕輪工業高等学校</div> <div>沿革</div> <div><div>・大正 13 年 中箕輪実業補習学校</div><div>・昭和 23 年 定時制設置</div><div>・昭和 24 年(県)中箕輪高等学校</div><div>・昭和 39 年(県)箕輪工業高等学校</div></div> <div>設置学科及び生徒数</div> <div><div>・普通科</div><div>1 年 80 人、2 年 70 人</div><div>3 年 67 人、計 217 人</div><div>・工業科</div><div>1 年 41 人、2 年 33 人</div><div>3 年 38 人、計 112 人</div><div>合計 329 人</div><div>・定時制機械科</div><div>1 年 9 人、2 年 8 人</div><div>3 年 10 人、4 年 5 人</div><div>合計 32 人</div></div>	<div>【生徒数の状況】</div> <div><div>・第 8 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 2,030 人に対し、平成 31 年には、1,804 人となることが予想される。226 人の減少で、およそ 88.9%となる。</div><div>・中学校卒業生数の減少により、第 8 区での募集学級数は、平成 17 年の 39 学級に対し、平成 31 年には、5 学級程度の減少が見込まれる。</div><div>・第 8 ・ 9 区の各学校の配置や交通の利便性、区間流入を加味すると、第 8 区には現在 8 校が設置されているが、将来的には 6 校程度が適切である。</div></div> <div>【流出入】</div> <div><div>・第 8 区は、第 7 区への流出が多く、平成 17 年度は 146 人（公立全日 119 人、私立 27 人）が流出し、7 区からの流入は 26 人（公立全日 15 人、定時 1 人、私立 10 人）であり、120 人流出が多い。</div><div>・また第 9 区への流出も、70 人（公立全日 68 人、私立 2 人）であるのに対し、9 区からの流入は、21 人（公立全日 16 人、定時 3 人、私立 2 人）であり、49 人流出が多い。</div><div>・第 8 区は通学圏域が広いと判断できる。</div></div> <div>【入学者の状況】</div> <div><div>・平成 17 年度入学生の場合、全日制は 3 学級募集で入学者は 120 人であり、募集定員を満たしている。定時制は 1 学級募集で入学者は 8 人である。</div></div> <div>（平成 16 年度中学校卒業生の進学状況）</div> <table><tr><th>進学先</th><th>箕輪工業 高 校</th><th>第7区 の高校</th><th>第8区の 他の高校</th><th>第9区 の高校</th><th>その他 の高校</th><th>合計</th></tr><tr><td>箕輪</td><td>28</td><td>48</td><td>183</td><td>0</td><td>9</td><td>268</td></tr></table>	進学先	箕輪工業 高 校	第7区 の高校	第8区の 他の高校	第9区 の高校	その他 の高校	合計	箕輪	28	48	183	0	9	268
進学先	箕輪工業 高 校	第7区 の高校	第8区の 他の高校	第9区 の高校	その他 の高校	合計									
箕輪	28	48	183	0	9	268									

(箕輪工業高校の平成 17 年度入学者の出身中学の状況)

箕輪工業高校入学内訳 (120名募集)		割合
箕輪中学	28	23.3
第 8 区他の中学	88	73.3
その他の中学	4	3.3
合 計	120	100.0

【地理的状況】

- ・箕輪工業高校は、第 3 通学区のほぼ中央に位置しており、比較的広範囲からの通学が可能である。箕輪工業から最寄駅の木ノ下駅まで徒歩 10 分である。
- ・箕輪工業高校の最寄駅の木ノ下駅までの所要時間は、富士見駅からは 63 分、伊那大島駅からは 67 分である。

【総括】

- ・多部制・単位制高校には広範な地域から生徒が集まることを想定し、立地条件がよい学校を転換する必要がある。
- ・第 8 区の生徒数の状況及び地理的な状況から、箕輪工業高校を多部制・単位制高校に転換していく。

【再編後のイメージ】

- ・箕輪工業高校は工業科を設置しているが、既設の施設設備を活用した体験的な教育を行うことが可能である。また、地域産業との連携によるインターンシップ等についても進めていく。
- ・午前部・午後部・夜間部という三部制の多部制・単位制高校とすることにより、全日制と同様な時間帯で学ぶことができ、また所属する部以外の授業を履修することにより 3 年間で卒業することも可能である。
- ・多様な生活歴や学習歴のある生徒に対応し、自分の得意科目を深めたり、進路希望により科目選択できることや自分に適した時間帯に学べることを活かして、大学進学を目指すこともできる学校としていく。
- ・幅広い教養や職業に関する知識、技術の習得を希望する地域の人にも学ぶことができる機会を提供し、生涯学習の場としても活用できるように工夫していく。
- ・南信の定時制の中心的高校として、他の定時制高校と相互に連携した教育を行い、第 4 通学区の松本筑摩高校通信制課程のスクーリング会場としていく。

【近隣校の状況】

- ・上伊那農業高校定時制は、箕輪工業高校と学校間距離が比較的近いとため、多部制・単位制の柔軟さを生かした教育ができるように統合していく。

赤穂高校と駒ヶ根工業高校との統合

赤穂高等学校

沿革

- ・大正 6 年(村)公民実業学校
- ・昭和 23 年 定時制設置
- ・昭和 24 年(県)赤穂高等学校

設置学科及び生徒数

- ・全日制普通科
1 年 202 人、2 年 199 人
3 年 162 人、計 563 人
- ・全日制商業科
1 年 82 人、2 年 80 人
3 年 79 人、計 241 人
合計 804 人
- ・定時制普通科
1 年 28 人、2 年 15 人
3 年 15 人、4 年 17 人
計 75 人

駒ヶ根工業高校

沿革

- ・昭和 36 年(県)赤穂高等学校に工業科設置
- ・昭和 39 年(県)駒ヶ根工業高等学校(赤穂高等学校工業科が分離独立)

設置学科及び生徒数

- ・工業科
1 年 111 人、2 年 106 人
3 年 114 人、計 331 人

【生徒数の状況】

- ・第 8 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 2,030 人に対し、平成 31 年には、1,804 人となることが予想される。226 人の減少で、およそ 88.9%となる。
- ・中学校卒業生数の減少により、第 8 区での募集学級数は、平成 17 年の 39 学級に対し、平成 31 年には、5 学級程度の減少が見込まれる。
- ・第 8・9 区の各学校の配置や交通の利便性、区間流入を加味すると、第 8 区には現在 8 校が設置されているが、将来的には 6 校程度が適切である。

【流出入】

- ・第 8 区は、第 7 区への流出が多く、平成 17 年度は 146 人(公立全日 119 人、私立 27 人)が流出し、7 区からの流入は 26 人(公立全日 15 人、定時 1 人、私立 10 人)であり、120 人流出が多い。
- ・また第 9 区への流出も、70 人(公立全日 68 人、私立 2 人)であるのに対し、9 区からの流入は、21 人(公立全日 16 人、定時 3 人、私立 2 人)であり、49 人流出が多い。
- ・第 8 区は通学圏域が広いと判断できる。

【入学者の状況】

- ・赤穂高校全日制は平成 17 年度 7 学級募集し、入学者 283 人であり、募集定員を満たしている。
- ・駒ヶ根工業高校は平成 17 年度 3 学級募集し、入学者 111 人であり、定員を下回っている。

(平成 16 年度中学校卒業生の進学状況)

進学先	駒ヶ根工業 高 校	赤 穂 高 校	第 8 区 他の高校	第 9 区 の高校	その他 の高校	合計
赤穂	40	65	127	22	15	269
駒ヶ根東	2	10	36	0	2	50
合 計	42	75	163	22	17	319

(平成 17 年度高校入学者の状況)

駒ヶ根工業高校入学者内訳(120名募集)			赤穂高校入学者内訳(280名募集)		
		割合			割合
赤穂中学	40	36.0	赤穂中学	65	23.0
春富中学	17	15.3	伊那中学	23	8.1
飯島中学	13	11.7	伊那東部中学	52	18.4
宮田中学	15	13.5	飯島中学	21	7.4
第8区他の中学	22	19.8	第8区他の中学	111	39.2
その他の中学	4	3.6	その他の中学	11	3.9
合 計	111	100.0	合 計	283	100.0

【地理的状況】

- ・駒ヶ根市内にある赤穂高校と駒ヶ根工業高校は、学校間距離が 3.2km である。
- ・赤穂高校は最寄駅の小町屋駅から徒歩 10 分、駒ヶ根工業高校は

	<p>伊那福岡駅から 15 分の距離にある。</p> <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 8 区の生徒数の減少や流出入の状況から、駒ヶ根市内の 2 校を統合し、両校が培ってきた教育資源を活用して、多様な学びの選択を可能とする高校として設置する。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ根工業高校には現在、機械科、電気科、情報技術科が設置され、赤穂高校には普通科と商業科が設置されている。統合して新たに設置する高校には、これらの学科の特性を活かし、地域の生徒に学びの選択肢を提供していくことができる。 ・当面は主に赤穂高校の校舎・校地を利用しながら、工業科設備のある駒ヶ根工業高校の校舎・校地も同時に利用していく。 ・将来的には、生徒数の推移や校舎改築の時期を考慮しながら、赤穂高校の校舎・校地に統合していく。 ・統合後の新たな学校では、普通科、商業科、工業科の 3 科での総合選択制等の工夫をしていくことが可能である。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箕輪工業高校を多部制・単位制高校に転換していく。 ・高遠高校は、通学の利便性の点で地理的条件を考えると地域の生徒の進学先として設置しておく必要がある。 ・上伊那農業高校は、第 3 通学区の農業科の中心的な高校としていく。 ・伊那市内にある伊那北高校、伊那弥生ヶ丘高校は、伊那市の中学校卒業生数の推移より、市内に 2 校を配置しておく必要がある。 ・辰野高校は、上伊那の北部の生徒たちの通学を保障するために配置しておく必要がある。
--	---

下伊那農業高校と飯田長姫高校との統合（総合学科に転換）

下伊那農業高校

沿革

- ・大正 9 年(郡)下伊那農学校
- ・大正 11 年(県)下伊那農学校
- ・昭和 23 年(県)下伊那農業高等学校

設置学科及び生徒数

- ・農業科
1 年 163 人、2 年 163 人
3 年 164 人、計 490 人

飯田長姫高校

沿革

- ・大正 10 年(町)飯田職業学校
- ・昭和 14 年(県)飯田商業学校
- ・昭和 24 年(県)飯田長姫高等学校

設置学科及び生徒数

- ・商業科
1 年 82 人、2 年 122 人
3 年 111 人、計 315 人
- ・工業科
1 年 79 人、2 年 73 人
3 年 79 人、計 231 人
合計 546 人
- ・定時制普通科
1 年 22 人、2 年 27 人
3 年 35 人、4 年 22 人
合計 106 人

【生徒数の状況】

- ・第 9 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 1,824 人に対し、平成 31 年には、1,548 人となることが予想される。276 人の減少で、およそ 84.9%となる。
- ・中学校卒業生数の減少により、第 9 区での募集学級数は、平成 17 年の 38 学級に対し、平成 31 年には、7 学級程度の減少が見込まれる。
- ・第 8・9 区の各高校の配置や交通の利便性、区間流入の状況を加味すると、第 9 区には現在 8 校が設置されているが、将来的には 7 校程度にしていくことが適切である。

【流入】

- ・第 9 区は、流入が比較的少ない。
- ・平成 17 年度では、8 区からの流入が 70 人（公立全日 68 人、私立 2 人）であり、8 区への流出は 21 人（公立全日 16 人、定時 3 人、私立 2 人）である。

【入学者の状況】

- ・平成 17 年度入学者については、下伊那農業高校は 4 学級を募集し、入学者数 163 人、飯田長姫高校は 4 学級を募集し入学者数 161 人であり、定員を満たしている。

（平成 16 年度中学校卒業生の進学状況）

進学先	飯田長姫	下伊那農業	第 9 区の 他の高校	第 8 区 の高校	その他の 区の高	合計
飯田西 (割合)	5 5.7	6 6.9	69 79.3		7 8.0	87
飯田東 (割合)	9 10.3	3 3.4	69 79.3	1 1.1	5 5.7	87
旭ヶ丘 (割合)	10 5.6	14 7.9	146 82.5	2 1.1	5 2.8	177
緑ヶ丘 (割合)	33 12.7	24 9.2	196 75.4		7 2.7	260
竜峡 (割合)	10 14.1	10 14.1	50 70.4		1 1.4	71
竜東 (割合)	2 5.1	3 7.7	31 79.5		3 7.7	39
鼎 (割合)	12 9.0	14 10.4	104 77.6		4 3.0	134
高陵 (割合)	10 5.2	19 9.8	154 79.4		11 5.7	194
松川 (割合)	9 5.8	12 7.7	115 73.7	8 5.1	12 7.7	156
高森 (割合)	8 5.8	19 13.9	104 75.9	1 0.7	5 3.6	137
喬木 (割合)	13 17.1	6 7.9	55 72.4		2 2.6	76
豊丘 (割合)	6 6.8	8 9.1	68 77.3	3 3.4	3 3.4	88
合計 (割合)	127 8.4	138 9.2	1161 77.1	15 1.0	65 4.3	1506
第 9 区と他 (割合)		1426 94.7		80 5.3		

(平成17年度高校入学者の状況)

飯田長姫高校入学者内訳(160名募集)			下伊那農業高校入学者内訳(160名募集)		
		割合			割合
飯田西	5	3.1	飯田西	6	3.7
飯田東	9	5.6	飯田東	3	1.8
旭ヶ丘	10	6.2	旭ヶ丘	14	8.6
緑ヶ丘	33	20.5	緑ヶ丘	24	14.7
竜峡	10	6.2	竜峡	10	6.1
竜東	2	1.2	竜東	3	1.8
鼎	12	7.5	鼎	14	8.6
高陵	10	6.2	高陵	19	11.7
松川	9	5.6	松川	12	7.4
高森	8	5.0	高森	19	11.7
喬木	13	8.1	喬木	6	3.7
豊丘	6	3.7	豊丘	8	4.9
第9区の他の中学	22	13.7	第9区の他の中学	23	14.1
その他の中学	12	7.5	その他の中学	2	1.2
合 計	161	100.0	合 計	163	100.0

【地理的状況】

- ・飯田長姫高校と下伊那農業高校は、学校間距離が700mの近距離にある。
- ・両校とも、鼎駅から徒歩10～15分であり、通学の利便性はよい。

【総括】

- ・第9区の生徒数の推移及び地理的状況から、比較的近距離にある飯田長姫高校と下伊那農業高校とを統合し、両校のこれまで培ってきたノウハウを活かした総合学科高校に転換していく。
- ・統合後は、飯田長姫高校(敷地面積47,874㎡)の約2倍の広さである下伊那農業高校(敷地面積93,511㎡)の校舎・校地を活用していく。

【再編後のイメージ】

- ・下伊那農業高校には、園芸クリエイト、食品科学、アグリサービス、農業機械の4つの小学科が設置されており、長姫高校には、商業科、工業科の2学科が設置されている。これまでに両校が培ってきた、農業、商業、工業に関連する幅広い系列を設けた総合学科にしていく。
- ・下伊那の主要産業である農業に関する系列や、飯田長姫高校の商業科の教育内容や施設、設備を活かしたビジネスに関する系列を設けることが可能である。

【近隣校の状況】

- ・飯田長姫高校の工業科を飯田工業高校へ統合するなど、飯田工業高校の専門教育の充実を図っていく。
- ・阿智高校と阿南高校は、地勢や交通の利便性を考慮し、地域の中学校卒業者の進学先として配置しておく必要がある。

箕輪工業高校（多部制・単位制）と上伊那農業高校定時制・
飯田工業高校定時制・飯田長姫高校定時制の再編

上伊那農業高等学校定時制

沿革

- ・明治 28 年(郡)上伊那簡易農学校
- ・明治 37 年(県)上伊那甲種農学校
- ・昭和 23 年(県)上伊那農業高等学校
- ・昭和 24 年 定時制設置

設置学科及び生徒数

・定時制普通科

1 年 17 人、2 年 19 人
3 年 10 人、4 年 12 人
合計 58 人

飯田工業高等学校定時制

沿革

- ・昭和 21 年(村)上郷農工技術学校
- ・昭和 34 年(県)飯田工業高等学校
- ・昭和 36 年 夜間定時制設置

設置学科及び生徒数

・定時制機械科

1 年 19 人、2 年 14 人
3 年 12 人、4 年 17 人
計 62 人

飯田長姫高等学校

沿革

- ・大正 10 年(町)飯田職業学校
- ・昭和 14 年(県)飯田商業学校
- ・昭和 23 年(県)飯田実業高等学校、定時制設置

【入学者の状況】

- ・第 7 区においては、岡谷工業高校定時制を平成 16 年より募集停止している経過から、諏訪実業高校定時制の充実を図っている。
- ・平成 17 年度の入学者選抜において、箕輪工業高校は募集定員 40 人に対し入学者は 8 人、上伊那農業高校定時制は募集定員 40 人に対し 17 人、飯田長姫高校定時制は募集定員 80 人に対し 22 人、飯田工業高校定時制は募集定員 40 人に対し 13 人である。
- ・第 3 通学区定時制の充足率は募集定員の 40%ほどであり、例年同様な割合である。

(第 3 通学区定時制課程の募集定員・入学者数・在籍者数の状況)

高 校 名	H13			H14			H15			H16			H17		
	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数
諏訪実業	40	11	55	40	17	50	40	19	61	40	24	71	40	22	83
岡谷工業	40	5	30	40	14	38	40	10	39			28			21
(小計)	80	16	85	80	31	88	80	29	100	40	24	99	40	22	104
箕輪工業	40	5	23	40	7	17	40	9	22	40	9	28	40	8	32
上伊那農業	40	7	38	40	10	38	40	11	42	40	18	51	40	17	58
赤 穂	40	19	82	40	22	84	40	26	87	40	18	77	40	28	75
(小計)	120	31	143	120	39	139	120	46	151	120	45	156	120	53	165
飯田工業	40	21	60	40	21	67	40	14	70	40	21	69	40	13	62
飯田長姫	80	31	113	80	45	125	80	40	124	80	26	116	80	22	106
(小計)	120	52	173	120	66	192	120	54	194	120	47	185	120	35	168
合 計	320	99	401	320	136	419	320	129	445	280	116	440	280	110	437

【地理的状況】

- ・第 7 区の定時制は、諏訪実業高校にのみ設置されており、今後とも配置していく必要がある。
- ・多部制・単位制高校としていく箕輪工業高校は、第 3 通学区のほぼ中央に位置し、広範囲から生徒を募集できるが、赤穂高校定時制、飯田長姫高校定時制は通学圏域が異なっており、在籍者数も比較的多いため、駒ケ根市、飯田市には定時制課程を配置しておく必要がある。

【総括】

- ・上伊那農業高校定時制は、箕輪工業高校定時制と同じ通学圏域であるため、多部制・単位制高校のメリットを活かせるように箕輪工業高校に統合する。
- ・地理的状況を考慮して、第 8 区の定時制の充実を図るため、箕輪工業高校と地理的に離れている駒ケ根市には赤穂高校と駒ケ根工業高校を統合した新たな高校に定時制課程を配置していく。
- ・同様に、下伊那農業高校と飯田長姫高校を統合した新たな高校にも定時制課程を配置する。
- ・飯田工業高校定時制は、飯田長姫高校定時制と同じ通学圏域となることから、飯田長姫高校と下伊那農業高校を統合した新たな高校の定時制に統合する。

・昭和 24 年(県)飯田長姫高等学校

設置学科及び生徒数

・定時制普通科

1 年 22 人、2 年 27 人

3 年 35 人、4 年 22 人

計 106 人

【再編後のイメージ】

・箕輪工業高校を多部制・単位制高校とし、第 3 通学区の定時制の中心校として、他の定時制との連携を図り、教育内容を充実していく。

・飯田長姫高校と下伊那農業高校を統合した新たな学校に配置する定時制は、多様な生徒のニーズに応え、単位制を活用し通信制との併修や他の定時制との連携が進められるように、柔軟な教育をしていく。

・統合後の定時制の空き教室は、生徒のニーズにより、相談室を整備するとともに、居場所づくりやカウンセリング体制がとれるようにしていく。

【近隣校の状況】

・第 3 通学区の多部制・単位制高校と各定時制高校は、相互に連携をとって教育を展開することや、第 4 通学区に設置される中南信の通信制課程中心校のスクーリング会場としても利用していく。

第 3 通学区の定時制・通信制課程の再編整備候補案の概要

